

令和6年度

柿原小学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○根拠を持って、自分の考えを表現することができる
○他者の考えを受け入れながら、伝え合い、学び合える

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員  筒井 美帆	委員	校長:上岡 有里	教頭:河野 恵子
		教務主任:原田 理恵	
		研修主任:佐光 祥子	
		特別支援教育コーディネーター:原田 理恵 杉本 明日香	

校長

上岡 有里

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読みや整数の四則計算などの基礎的・基本的な知識・技能が身についている児童が多い。 ●漢字や九九などの基礎的・基本的な知識・技能の定着の差が大きいのが課題である。	・整数の四則計算を確実に行うことができる。 ・漢字を適切に使うことができる。 ・語彙を増やし、正確に文章を読んだり、書いたりすることができる。	・タブレットドリルを効果的に活用し、基礎的・基本的な練習問題を繰り返し行う。 ・習熟度別のプリントを用意したり、モジュールの時間を活用して、漢字や計算の小テストを実施したりする。 ・作文読本を活用する。	児童の発達段階や能力、課題の進み具合に応じてタブレットを積極的に活用できている。小テストの実施について、学年によって差があるので、モジュール等の時間を有効活用し、改善に努めていく。	・モジュールの時間を活用し、漢字の小テストを実施することができた。 ・わからない言葉は国語辞典を引いて自分で調べるように指導できた。 ・タブレットドリルの活用に関しては、学年によって差が大きい。	基礎的な計算方法や公式、既習事項などが十分に身に付いていない児童が多いので、教室に掲示するなどして、すぐに確かめることができるようにする。タブレットについては今後も教員間で活用方法を共有していきたい。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話形をもとに、自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりすることができる。 ●根拠をもとに、自分の考えを表現したり、友達と意見交流し、新しい考えをつくり出したりすることに課題がある。	・話し合い活動を通して思考を深め、問題解決に取り組むことができる。 ・根拠や理由を用いて、自分の考えを説明したり、文章に書き表したりすることができる。	・話形や話し合いのモデルをもとにペアやグループ活動を意図的に設定する。 ・タブレットを効果的に活用し、友達と意見交流する機会を設ける。意見を言うときは、根拠をもとに言葉だけでなく図や表などを用いながら表現できるようにする。	ペアやグループで考えを伝え合う時間を確保したり、理由や根拠をもとに自分の意見を発表するように指導したりすることができている。今後はタブレットを活用した意見交流なども行っていきたい。	・ペアやグループでの話し合い活動をどの学年も積極的に取り入れることができた。 ・タブレットを活用した意見交流の実践については学年によって差がある。 ・根拠をもとにした意見の表現に関しては今後も指導が必要である。	根拠をもとに意見を言ったり書いたりする際には、モデルや話形の提示をする。自分の考えを表現することに苦手意識をもっている児童が多いので、発問を工夫したり、教室の雰囲気づくりを大切にしたりしていきたい。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に真面目に向き合い、課題にも一生懸命取り組むことができる。 ●家庭学習や読書、苦手の学習内容の克服等に、計画的、継続的に取り組むことに課題がある。	・家庭の事情や発達段階に応じた家庭学習や読書の習慣を身に付けることができる。 ・苦手の学習にも最後まで粘り強く取り組むことができる。	・個人で取り組むだけでなく、児童同士が学び合う場面をつくる。 ・教材に関連した本の紹介や読み聞かせを行う。 ・保護者と連携し、家庭学習の取組状況についてチェック表で振り返る機会を設ける。	生活チェック表に関しては、児童によって取組状況に差がある。家庭学習については、保護者との連携が重要になるので、今後はさらに保護者と連携し、協力しながら進めていきたい。	・自主学習に関しては、児童同士で見せ合ったり、コメントし合ったりする機会を設けることで、学び合うことができた。 ・保護者と連携をとることはできているが、家庭での課題や読書活動の取り組み状況に大きく差がある。	苦手の学習に少しでも前向きに取り組むことができるようにタブレットを有効活用したり、教材や教具を工夫したりしていく必要がある。また、家庭学習に関しては、今後も継続して保護者と連携して進めていきたい。

令和6年度 学力向上ロードマップ

